

(2) 産業の発展につくした人びと



掛田の製糸工場（明治末）

さんぎょう はってん ようす 蚕業の発展の様子

いま
今から300年ほど前の1670年、「登世糸」として遠く京
都まで出荷されました。村の市（三と八の日）に生糸が
とりひきされ、秋葉神社の祭日（7月28日）の^{おおいち}大市は有
名でした。

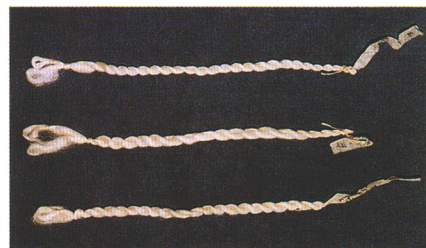
その後、^{かいこ ひんしゅかいりょう}蚕の品種改良※1・^{せいしほう}製糸法※2が研究され、掛田
の佐藤家で「赤熟」という有名な品種を作り、佐藤久之助が
さらに改良して世間に広めました。

1772年、幕府から「蚕種本場」の免許をもらい、掛田の養
蚕は、全国的に有名になっていきました。1853年「掛田座く
り糸」がアメリカに輸出され、世界進出が始まりました。生
糸の品種改良も進み糸目のそろわなかった座繰糸を、掛田の
^{ひんしゅかいりょう}品種改良も進み糸目のそろわなかった座繰糸を、掛田の
^{やすだりさく}安田利作が改良しました。「掛田折り返し糸」として1897年
(明治30年) すぎまで輸出されました。

- ※1 目的にあわせて種のせいしつをかえていくこと。
- ※2 蚕のまゆから生糸をつくる方法。

かつて掛田は、「蚕の村・生糸の町」としてさかえ
ました。掛田の涼しい気候と土地が桑に^{くわ}あい、^{おくに}小国
川の^{がわ}水が生糸にあう^{など}等の^{じょうけん}条件がよかったからです。

毎年^{こうずい}洪水になやまされた農家が^{こうずい}洪水を防ぐために
^{くろう}苦勞して桑を植えたり、^{くろう}苦勞して^{ようさん}養蚕の改良に^{かいりょう}力を
つくす^{など}等の^{どりよく}努力が^{はってん}発展を支えたのです。



掛田折り返し糸



掛田折返し糸商標版木と商標
(霊山町掛田 安田利作氏蔵)